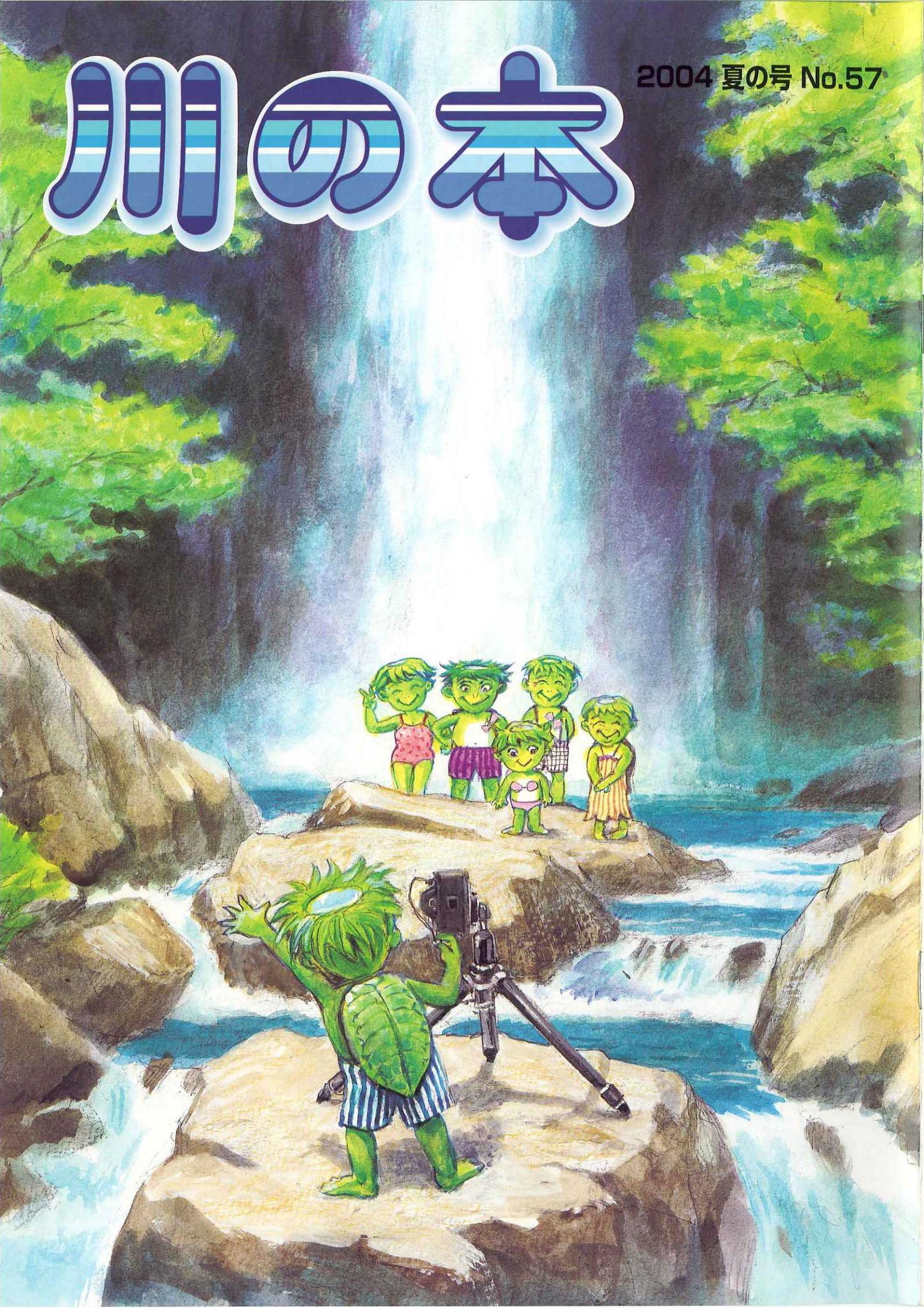


# 川の本

2004 夏の号 No.57





KAPPA no GAKKO

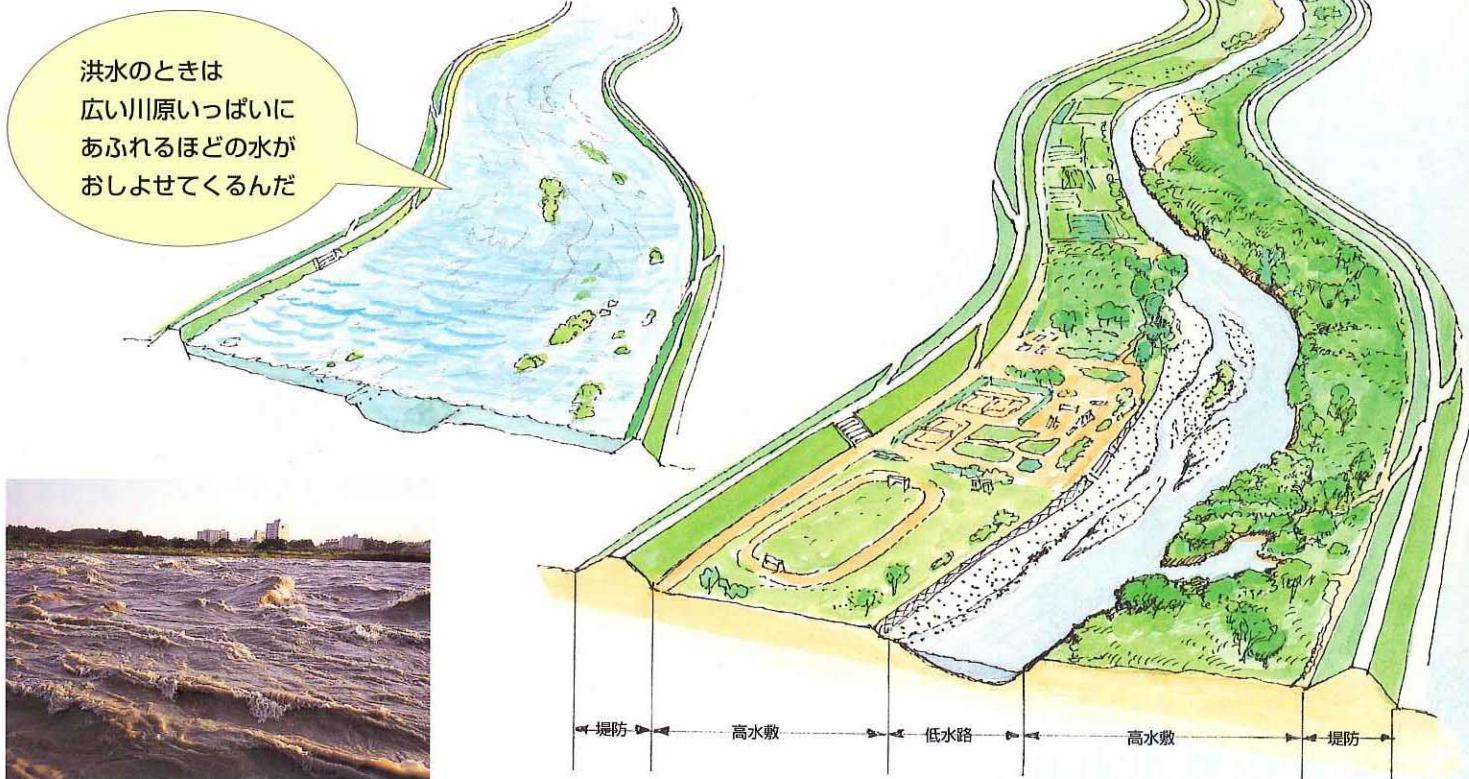
# 広い川原のはたらき

の？

▼ 広い川原ってあるでしょ。水の流れているところより、川原のほうがずっと広いけど、どうしてな

● 川は、ふだん水の流れが小さくても、大雨が降つたりすると、おどろくほど水がふえて、洪水になることがある。もし広い川原がな





ければ、洪水は町にあふれでて、水害をおこしてしまう。広い川原は、みんなのくらしを守るために、なくてはならない広場なんだよ。

### ▼洪水の時だけ役に立つの？

ちがう、ちがう。広い川原は、ふだんでも役に立っているよ、上の絵を見てよ。運動場や公園として利用されているところもあるよね。川原は、スポーツだけでなくバーベキューをしたり、のんびり散歩するなど、人々のいこいの場所としても役に立っているんだ。

▼だけど草がしげっていたり木がはえているところもいっぱいあるよ、そこも役に立つの？

もちろんだよ。そこは鳥や、動物・昆虫たちがくらす大事な自然の場所だよ。だから水辺をふくめて自然観察や学習をするのには、もってこいの場所なんだ。川原ならではの自然のすがたを観察してかけてみるとおもしろいよ。ただし、きけんな場所には行かないなど、ルールは守ろうね。



# 河五郎渡士

かわごろうわたど

栃木県 荒井川

むかしむかし 栃木県の久我(くが)あたりは、山と山にはさまれた深い山里で、そこを流れる荒井川は村人にとっては水を運んでくれるありがたい川じゅつた。

その荒井川にそつて道が一本あったが、人がひとりやつと通れるくらいの山道でな、それでも山おくの石裂(おざく)あたりまで、ほそぼそとつづいておつた。村人たちにとっては、どこへ行くにも、この道一本が、たよりじゅつた。だが、ひとつまつたことがあつた。

実はありがたいはずの荒井川が、ときどきあれば川になることじゅつた。大雨が降つたりするとさあ大変、山おくからまるで滝(たき)のようなくがどつと流れくだつてきて、丸木橋はもちろん川ぞいの道までくずしてしまう。これにはほとほと村人たちがこまつておつた。

さて、この荒井川のほとりに、河五郎じいさんは、たつたひとりですんでおつた。歳(とし)はとつてこども足こしはがんじょうで、くまのようにたくましい体をしておつたが、心はいたってやさしく、だれにも親切じゅつた。川べりのぬれた道をはうようにして通る村人を見ると、だまつてはいら

れない。

「これ、そこはすべりやすい、わしにつかまれや」と、手をひいてやつたり、こわれた橋の前でじまつてじる人があれば

「あんたにや、この流れを渡るのは、むづかしそうじゃ」

と、肩(かた)にかついで渡してやつたりして、村人たちから、かんしゃされておつた。

ある年の夏のこと、河五郎が山仕事を終え、帰りしたくをしていると、にわかに空いつぱい黒い雲がひろがつたかとおもうと、「ゴロゴロ、バリバリ」と、かみなりがなりひびき、たたきつけるようなはげしい雨が降りだした。

「こりやあ大変じや、荒井川があはれだせば向こう岸の家に帰れなくなつちまうぞ」

河五郎は、ざぶぬれになりながら山をおおり、やつとのことで川岸までたどりついたが、もうその時はおそかつた。丸太の橋はすでに流されていて、荒井川の流れはキバをむいた竜(りゅう)のようになれるぐるい、いまにも向こう岸の河五郎の家までも、のみこみそなじきおいじゅつた。これではさすがの河五郎もどうするともできない。



「神さま、なにとぞ荒井川を、しずめてくださいませ、一生のお願いです」

と、村の加蘇山神社（かそやまじんじゃ）に向かつて祈りつけたんじや。するじどうだらう、河五郎の必死（ひつし）の祈りがとどいたのか、まもなく、はげしい雨はうそのようにピタリとやみ、あれくねいた川の流れは、あるみるひきはじめ、いつもおだやかな流れに、もどったんじや。

「ややや、神さまがわしの願いをかなえてくださいぞ、なんとまあ、ありがたい」と

河五郎は大よろこびしたが、ふと考えた。

「たしか、わしは一生のお願いですと祈ったはずじや。これからは大雨が降つても、また一生のお願いといふわけにはいかねえぞ。なんども同じ願いをしては神さまに、もうしわけないからう」

そこで河五郎は神さまへのお礼の心もこめて、大雨が降つても流されない、がんじょうな橋をつくる決心をしたんじや。

あくる日から、河五郎の橋づくりがはじまつた。

山からふとい木をきりだしては、がんじょうな橋

ぐいをつくり、何本も何本も川にうちこんだ。い

くら元気な河五郎じいさんとはいえ、これはたい

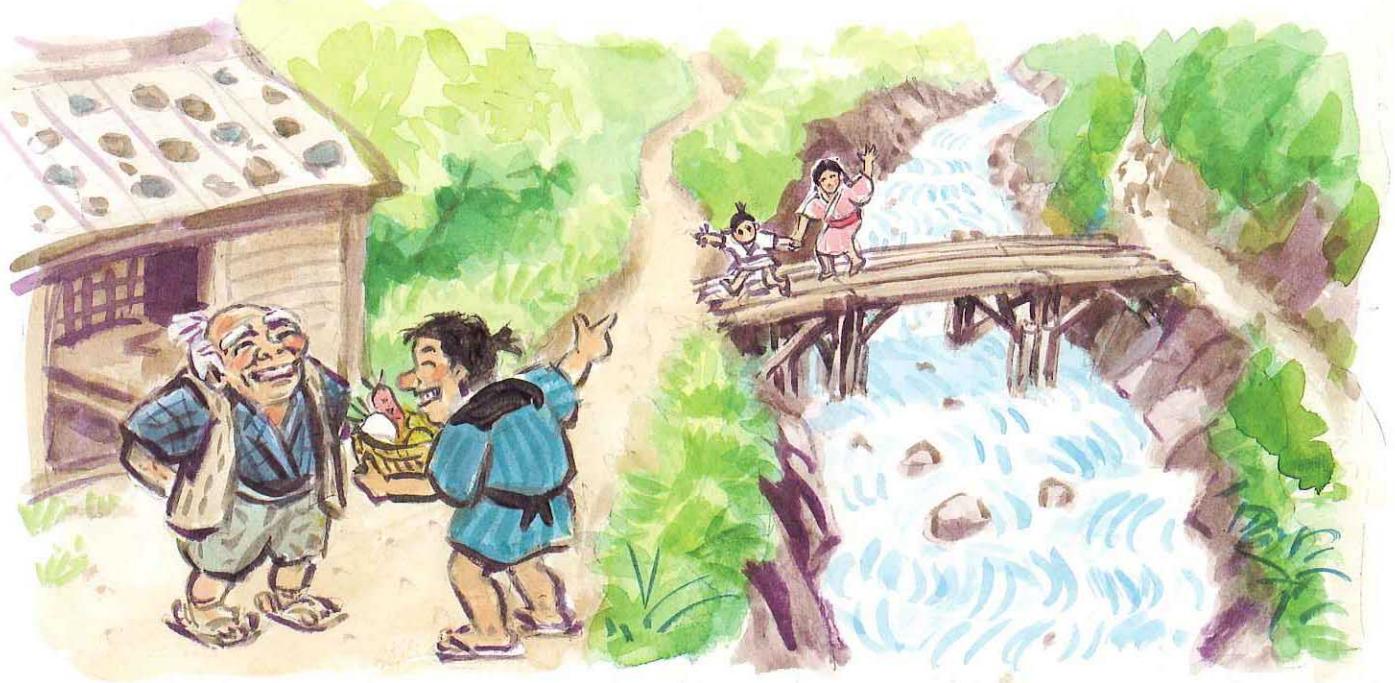
へんな仕事じや。太い指はまめだらけ、そのまめ

がつぶれていつも血がにじんでおつた。丸太をか

つぐ肩（かた）からも血がしたたる。それでもめげず、くる日もくる日も、はたらきつけ、どう

とう、がんじょうな橋をつくりあげたんじや。

このお話を、鹿沼市にお住いの小杉義雄さんご協力により、小杉さん発行の「子どものための鹿沼のむかし話」より引用・現地取材の上、再話したものです。



おまけに、まわりの道までなおしてしまつた。

おかげで、雨の日も村の人たちは安心して、川ぞいの道を行き来できるようになったんじや。

「河五郎じいさんや、ありがとう、ありがとう」

村人たちは、橋をわたるたび、野菜をとじけたり、もちをとどけたりして、かんしゃした。

そのうち、だれいうともなく、このあたりを河五郎渡士（河五郎がわたしてくれたところ）と呼ぶようになつたんじや。

宇都宮  
・唐沼  
根思川  
利瀬良川  
荒井川



# 楽しい流木工作

川の水に、流されさらされて天日に干された流木は、ふしぎなほどみりょく的だ。この天然の素材をいかしてさあ君も流木工作にチャレンジしよう。

タオルの切れはしてはたをつけてできあがり

川へでかけて流木をあつめよう。

大げさな流木なんていらないよ。小さな木きれをあつめて自然の形をいかして、魚や鳥などを作るのもおもしろいし、ちょっと色をぬるだけで、おしゃれなかべかざりや、おきものなども作れるよ。いろいろ、ためしてみよう。



小さな流木はあつかいにくい  
切ったりあなたけたりするとさけがをしないよう、じゅうぶん注意しよう

鳥の形になりそうだ



いろんな方向からながめてみる



川原で流木の木切れをあつめる

ぐんてをはめる





くちばしをつけたら  
小鳥になった



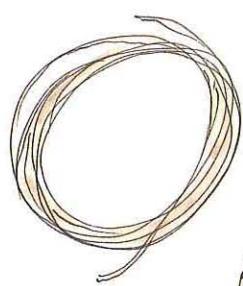
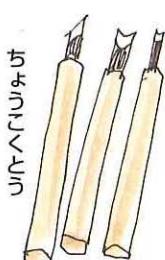
魔よけのお守り



色もようをつけて  
かわいいかべかけのできあがり



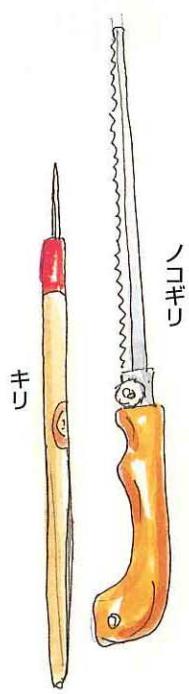
川原にはこんな木切れがいっぱいある



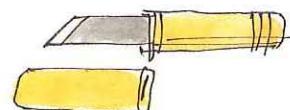
園芸用のアルミ線が  
やわらかくて使いやすい



こがたな



ペンチ



小さな木切れにあなをあけるときは  
たたんだぬれぞうきんなどの上ですると  
やりやすい

# 川の仲間たち

## ササゴイ (コウノトリ目サギ科)

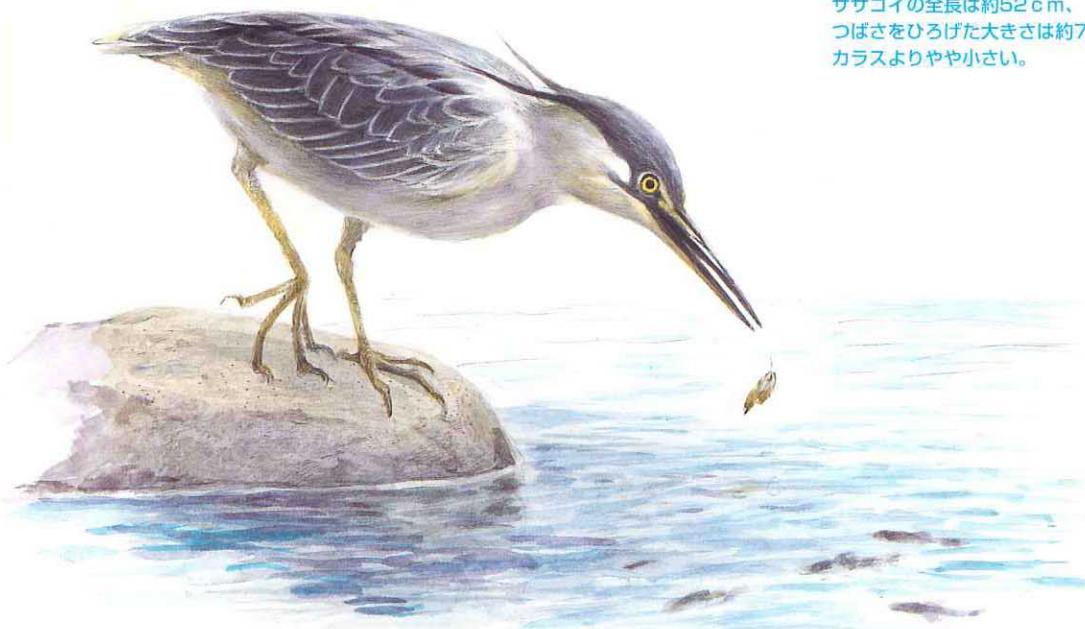
日本では本州、四国、九州の平地に夏鳥として渡来するのがふつうです。生活の場は、おもに平地の川や湖沼です。

ひらけた川の岸辺や浅瀬の石の上などに、じっと立って、川面を見つめるササゴイを見かけることがあります。

これは、実はササゴイの「まちぶせ漁」です。近くを通る魚にねらいをさだめると、ぬき足、さし足、そ

ろり、そろりとよっていくやいなや、ちじめていた首をさっとのばし、するどい口ばしでつかまえます。

ほかにササゴイは「まきえ漁」をすることでも知られています。熊本県の水前寺公園の池での「まきえ」が有名です。このササゴイは、木の葉の切れはしなどをくわえてきて、ポイッと池に投げいれます。それを、えさとまちがえて、よってきた魚をつかまえるのです。こんなこと、どのように学習したのでしょうか。



ササゴイの全長は約52cm、  
つばさをひろげた大きさは約76cmで  
カラスよりやや小さい。

### 河川愛護月間

[7月1日→31日・7月7日は川の日です]  
～水辺にやすらぎ 心にゆとり～

#### ★河川愛護月間推進標語を募集します★

詳細は国土交通省ホームページをご覧ください。  
(<http://www.mlit.go.jp/river/index.html>)



財團  
法人 河川環境管理財團

Foundation of River & Watershed Environment Management

(〒104-0042) 東京都中央区入船1丁目9番12号  
TEL (03)3297-2600 (代表) <http://www.kasen.or.jp/>